

制酸薬

製品群No. 10

ワークシートNo.8

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ	D 濫用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	用法用量	効能効果				
評価の視点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ	薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要 する(適応を 誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)	スイッチ化 等に伴う使 用環境の変 化				
		併用禁忌(他 剤との併用に より重大な問 題が発生する おそれ)	併用注意	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの			使用量に上 限があるもの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被 害のおそれ			
ケイ酸アルミ ン酸マグネシ ウム	スビーゲル	酸中和作用: 制酸薬	テトラサイクリン系抗生物質・ ニューキノロン系抗菌剤(こ れらの薬剤の効果が減弱)。 併用薬剤(併用薬剤の吸収・ 排泄に影響)			頻度不明(悪 心・嘔吐・便 秘・下痢・口 渇等・かゆ み)		透析療法(長期投 与によりアルミ ニウム脳症、アルミ ニウム骨症)	腎障害、心機能障 害、高マグネシウ ム血症、リン酸塩 低下、高齢者			長期大量投 与により高マ グネシウム 血症、長期投 与でアルミニ ウム脳症・アル ミニウム骨 症		通常成人1日1.5~4gを3~ 4回に分割経口投与する。 高齢者では減量。	胃・十二指腸 潰瘍、胃炎 (急・慢性胃 炎、薬剤性胃 炎を含む)、上 部消化管機能 異常(神経性 食思不振、い わゆる胃下垂 症を含む)の症 状の改善
メタケイ酸アル ミン酸マグ ネシウム	メタスタミン 細粒	制酸作用、抗 潰瘍作用	テトラサイクリン系抗生物質・ ニューキノロン系抗菌薬(抗 菌薬の効果の減弱)			悪心、嘔吐、 便秘、下痢、 口渇	かゆみ	透析療法中	腎障害、心障害、 高マグネシウム血 症、リン酸塩下 者、高齢者			長期投与時: アルミニウム 脳症、アルミ ニウム骨症、 長期大量投 与時:高マグ ネシウム血 症		1日1.5~4g、3~4回分服。 適宜増減	次の疾患にお ける制酸作用 と症状の改善: 胃・十二指腸 潰瘍、胃炎、上 部消化管機能 異常
合成ヒドロタ ルサイト	サモールN 散	制酸作用、抗 ペプシン作 用、抗潰瘍作 用	テトラサイクリン系抗生物質・ ニューキノロン系抗菌薬(抗 菌薬の効果の減弱)、他の 併用薬剤(他の併用薬剤の 吸収・排泄に影響)、大量の 牛乳、カルシウム製剤(ミルク ・アルカリ症候群)	長期投与時: アルミニウム 脳症、アルミ ニウム骨症、		下痢、軟便、 食欲不振、口 渇		透析療法中	腎障害、心障害、 下痢、高マグネ シウム血症、リン酸塩 の欠乏者、高齢者			長期投与時: アルミニウム 脳症、アルミ ニウム骨症、 長期大量投 与時:高マグ ネシウム血 症		1回0.5~1.0g、3~4回症状 が起こりやすい時間に合 わせて、食後又は食間(必 要な場合は就寝前)に経 口投与	胃潰瘍、十二 指腸潰瘍、胃 酸過多、急性 胃炎、慢性胃 炎における制 酸
酸化マグネシ ウム	マグラックス 錠	胃内で制酸 作用。腸内で の水分の再 吸収に抑制 的に働き腸管 内容物が膨 張し腸管に機 械的な刺激を 与えて排便を 容易にする。	テトラサイクリン系抗生物質・ ニューキノロン系抗菌剤・セ フジニル(これらの薬剤の吸 収を阻害)、高カリウム血症 改善イオン交換樹脂製剤(こ れらの効果が減弱)、活性型 ビタミンD3製剤(高マグネシ ウム血症を発症)、大量の牛 乳・カルシウム製剤(milk- alkali syndromeを発症)、ジ ギタリス製剤・鉄剤等(薬剤 の吸収・排泄に影響)			頻度不明 (高マグネシ ウム血症、 下痢)			腎障害、心機能障 害、下痢、高マグネ シウム血症、高齢 者			長期・大量投 与により胃・ 腸管内に結 石を形成し、 腸閉塞を起 したとの報 告。高マグネ シウム血症		1.酸化マグネシウムとし て、通常成人1日0.5~1.0g を数回に分割経口投与す る。 2.酸化マグネシウムとし て、通常成人1日2gを食前 又は食後の3回に分割経 口投与するか、又は就寝 前に1回投与する。 3.酸化マグネシウムとし て、通常成人1日0.2~0.6g を多量の水とともに経口投 与する。 なお、いずれの場合も年 齢、症状により適宜増減す る。高齢者では減量。	1.下記疾患に おける制酸作 用と症状の改 善胃・十二指 腸潰瘍、胃炎 (急・慢性胃 炎、薬剤性胃 炎を含む)、上 部消化管機能 異常(神経性 食思不振、い わゆる胃下垂 症を含む) 2.便秘症 3.尿路結石カ ルシウム結石 の発生予防
ジヒドロキシ アルミニウム アミノアセ テート(別名: アルミニウム グリシネート)	ダイアルミ ネート(プ ファリン等) 配合剤のみ 配合剤のみ														

制酸成分

制酸薬

製品群No. 10

ワークシートNo.8

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ	D 濫用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化に伴う 使用環境の 変化					
評価の視点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意す べき副作用のおそれ	薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要 する(適応を 誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)	スイッチ化 に伴う使用 環境の 変化	用法用量	効能効果	
		併用禁忌(他 剤との併用により 重大な問題が 発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの			使用量に上 限があるもの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被害 のおそれ		
	乾燥水酸化アルミニウムゲル	ホエミゲル 制酸作用、粘 膜保護作用、 収れん作用		クエン酸製剤(血中アルミニウム濃度が上昇)、血清カリウム抑制イオン交換樹脂(併用薬剤の効果が減弱) テトラサイクリン系抗生物質・ニューキノロン系抗菌剤・イソニアジド・ジギタリス製剤・フェニトイン・フェノチアジン誘導体・β-遮断剤・非ステロイド系解熱消炎鎮痛剤等(併用薬剤の吸収を遅延又は阻害)、ペニシラミン(併用薬剤の効果が減弱)、ミコフェノール酸モフェテル(併用薬剤の作用が減弱)、甲状腺ホルモン剤・胆汁酸製剤(併用薬剤の吸収を遅延又は阻害)、キニン等(併用薬剤の排泄が遅延)			頻度不明(便秘・悪心・嘔吐等・アルミニウム脳症、アルミニウム骨症等)		透析療法(長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症)	リン酸塩の欠乏、腎障害、高齢者		アルミニウム脳症・アルミニウム骨症	乾燥水酸化アルミニウムゲルとして1日1~3gを数回に分割経口投与する。	下記疾患における制酸作用と症状の改善 胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎、薬毒性胃炎を含む)、上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む) 尿中リン排泄増加に伴う尿路結石の発生予防
制酸成分	炭酸水素ナトリウム	重曹錠 500mg「メルク」	制酸作用。尿酸排泄抑制作用(尿のpHをアルカリ性にする)、尿路結石の予防。	マンデル酸ヘキサミン(併用薬剤の効果を減弱)	大量の牛乳・カルシウム製剤[milk-alkali syndrome(高カルシウム血症・高窒素血症・アルカローシス等)]、他の併用薬剤(併用薬剤の吸収・排泄に影響)		頻度不明(浮腫、胃部膨満、胃酸の二次的分泌)	高ナトリウム血症、浮腫、妊娠中毒症等のナトリウム摂取制限(症状悪化)	重篤な消化性潰瘍、腎障害、心機能障害、肺機能障害、低クロル性アルカローシス等の電解質失調	重篤な消化性潰瘍患者において胃酸の二次的分泌-リバウンド現象の可能性			炭酸水素ナトリウムとして、1日3~5g(6錠~10錠)を数回に分割経口投与する。 高齢者では減量。	胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎を含む)、上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む)における制酸作用と症状の改善、アシドーシスの改善、尿酸排泄の促進と痛風発作の予防
	炭酸マグネシウム	「純生」炭 シマ	制酸作用。効力は酸化マグネシウムの約1/2。瀉下作用。硫酸マグネシウムに劣る。非吸収性であり、アルカローシスを生じない。		テトラサイクリン系抗生物質・ニューキノロン系抗菌剤・エチドロン酸二ナトリウム・セフジニル(これらの薬剤の効果が減弱)、他の併用薬剤(併用薬剤の吸収・排泄に影響)、大量の牛乳・カルシウム製剤[milk-alkali syndrome(高カルシウム血症・高窒素血症・アルカローシス等)]		頻度不明(高マグネシウム血症・下痢)		腎障害、心機能障害、高マグネシウム血症、下痢、高齢者			長期大量投与で高マグネシウム血症	1.1日2gを数回に分割経口投与。高齢者では減量。 2.1日3~8gを頓用又は数回に分割経口投与。 高齢者では減量。	1.胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎、薬毒性胃炎を含む)、上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症)における制酸作用と症状の改善 2.便秘症

制酸薬

製品群No. 10

ワークシートNo.8

リスクの程度 の評価		A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ	D 濫用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	用法用量	効能効果			
評価の視点		薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意す べき副作用のおそれ	薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそ れ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要 する(適応を 誤るおそれ)			使用方法(誤使用のおそれ)	スイッチ化 等に伴う使用 環境の変化	
			併用禁忌(他 剤との併用に より重大な問 題が発生する おそれ)	併用注意	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの			使用量に上 限があるもの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被害 のおそれ		
沈降炭酸カ ルシウム	沈降炭酸カ ルシウム	制酸作用		テトラサイクリン系抗生物質 (併用薬剤の効果が減弱)、 他の併用薬剤(併用薬剤の 吸収・排泄に影響)、牛乳 [milk-alkali syndrome(高カ ルシウム血症・高窒素血症・ アルカローシス等)]、ビタミン D(高カルシウム血症)			5%以上又は 頻度不明(高 カルシウム血 症・アルカ ローシス等の 電解質失調・ 腎結石・尿路 結石・悪心・ 嘔吐・便秘・ 下痢)、0.1% 未満(胃酸の 反動性分泌)	5%以上又は 頻度不明(過 敏症)	甲状腺機能低下 症又は副甲状腺 機能亢進症(症状 悪化)	腎障害、心機能障 害、肺機能障害、 高カルシウム血 症、便秘、高齢者	胃酸の反動 性分泌			沈降炭酸カルシウムとし て、1日1~3gを3~4回 に分割経口投与。 高齢者では減量。	胃・十二指腸 潰瘍、胃炎 (急・慢性胃 炎、薬毒性胃 炎を含む)、上 部消化管機能 異常(神経性食 思不振、いわ ゆる胃下垂 症、胃酸過多 症を含む)の症 状の改善
ロートエキス	ロートエキス 散「ホエイ」	副交感神経 抑制作用。ア セチルコリン のムスカリン 作用と競合 的に拮抗。胃 酸又はペプシ ンの分泌を抑制。		三環系抗うつ剤・フェノチア ジン系薬剤・モノアミン酸化 酵素阻害剤・抗ヒスタミン剤・ イソニアジド(抗コリン作用の 増強)		頻度不明(視 調節障害・散 瞳・羞明・め まい・霧視・ 調節障害等・ 口渇・悪心・ 嘔吐・便秘 等・排尿障 害・頭痛・頭 重感・めまい 等・頻脈等・ 顔面潮紅) 自動車の運 転等危険を 伴う機械の 操作	頻度不明(過 敏症)	線内障(症状悪 化)、前立腺肥大 による排尿障害 (症状悪化)、重篤 な心疾患(症状悪 化)、麻痺性イレウ ス(症状悪化)、	前立腺肥大、うっ血 性心不全、不整 脈、潰瘍性大腸 炎、甲状腺機能亢 進症、高温環境、 高齢者、妊婦または 妊娠している可 能性のある婦人、 授乳婦				ロートエキスとして、1日20 ~90mg(本剤:0.2~0.9g) を2~3回に分割経口投 与。	胃酸過多・胃 炎・胃・十二指 腸潰瘍・痙攣 性便秘におけ る分泌・運動亢 進並びに疼痛	

制酸成分

制酸薬

製品群No. 10

ワークシートNo.8

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ		D 添用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	用法用量	効能効果	
		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ			薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要 する(適応を 誤るおそれ)				使用方法(誤使用のおそれ)
評価の視点	薬理作用	併用禁忌(他 剤との併用に より重大な問 題が発生する おそれ)	併用注意	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの						使用量に上 限があるもの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被害 のおそれ			
胃酸分泌抑制成分	塩酸ピレンゼ ピン	カストロゼピ ン錠	選択的ムスカ リン受容体拮 抗薬・酸分泌 抑制作用、抗 ガストリン作 用			無顆粒球症 (頻度不明)	アナフィラキ シー様症状 (頻度不明)	0.1~5%未 満(口渇・便 秘・下痢・悪 心・嘔吐)。 0.1%未満 (歯肉痛・膨 満感・排尿困 難・残尿感・ AST(GOT)上 昇・ ALT(GPT)上 昇・心悸亢 進・頭暈感・ たちくらみ・脱 力感・嘔声・ 眼のちらつ き・眼の乾燥 感に伴う流 涙・眼の調節 障)	0.1~5%未 満(過敏症)		過敏症の既往歴	前立腺肥大、緑内 障、妊婦又は妊娠 している可能性の ある婦人、授乳婦、 低出生体重児、新 生児、乳児、幼児 又は小児、高齢者					1回1錠(塩酸ピレンゼピン 無水物として25mg)を、1 日3~4回経口投与。 高齢者では減量。	急性胃炎・慢 性胃炎の急性 増悪期の胃粘 膜病変(びらん、出血、発 赤、付着粘液)並びに消化器 症状の改善。 胃潰瘍・十二 指腸潰瘍

健胃薬

製品群No. 11

ワークシートNo.9

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)			G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	I 用法用量	J 効能効果	
							症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)					
評価の視点	薬理作用	相互作用 併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ			スイッチ化等に伴う使用環境の変化			
								併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの				薬理・毒性に基づくもの
酵母	乾燥酵母「ホエイ」	乾燥酵母は含有する諸成分が総合して栄養補給、代謝機能促進、食欲増進、整腸などの薬効を現す。					頻度不明(大量投与による下痢)				大量で下痢		乾燥酵母として、通常成人1日5~10gを3回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	ビタミンB群、たん白質の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給
	塩化カルニチン	アヘタイン液 副交感神経興奮薬。胃液中のペプシン量と総酸度の増加					頻度不明(胸やけ、嘔気等)						塩化カルニチンとして、通常成人1日100~600mg(本剤1~6mL)を3回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	消化管機能低下のみられる慢性胃炎
胃腸機能調整成分	マレイン酸トリメブチン	セレキノン錠 胃腸機能調整薬。運動調節作用、運動機能障害					0.1%未満(便秘、下痢、腹痛、口渇、口内しびれ感、悪心、嘔吐、心悸亢進、眠気、めまい、けん怠感、頭痛、AST(GOT)・ALT(GPT)の上昇、排尿障害、尿閉)	0.1%未満(過敏症)					1.マレイン酸トリメブチンとして、通常成人1日量300mg(錠3錠、細粒1.5g)を3回に分けて経口投与。高齢者では減量。 2.マレイン酸トリメブチンとして、通常成人1日量300~600mg(錠3~6錠、細粒1.5~3.0g)を3回に分けて経口投与。高齢者では減量。	1.慢性胃炎における消化器症状(腹部疼痛、悪心、あじき、腹部膨満感) 2.過敏性腸症候群

整腸薬

製品群No. 12

ワークシートNo.10

リスクの程度 の評価の視点	A 薬理作用		B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		D 添用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用 環境の変化	用法用量	効果効果
	薬理作用	相互作用	併用禁忌(他 剤との併用により 重大な問題が発生する おそれ)	併用注意	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意す べき副作用のおそれ		薬理に基づき 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要 する(適応を 誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)	使用量に上 限があるもの			
乳酸菌成分																	
アシトフィル ス菌末																	
ビフィズス菌 末	ビフィダー	ビフィズス菌 は、腸内で増 殖し、乳酸と 酢酸を産生し て腸内菌叢の 正常化を はかり、整腸 作用をあらわ す(ビオフェル ミン錠)														通常、成人1日3～6錠を3 回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適 宜増減する。	効能又は効果 腸内菌叢の異 常による諸症 状の改善
ラクトミン	フソウラク ミン末	ラクトミンは、 腸内菌叢異 常の原因を 除き、バラン スの回復、諸 症状の改善 に有効														通常成人1日3～9gを3回 に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適 宜増減する。	腸内菌叢の異 常による諸症 状の改善
ラクビー	ラクビー ラクビー微 粒	腸内菌叢改 善作用。 健康成人に 本剤を投与し たところ、ビ フィズス菌が 増殖し、腸内 の優勢菌叢 を増し、腸内 菌叢の正常 化を促すと ともに、ビフィ ズス菌により産 生される酸に より、腸内pH を低下させ、 有害細菌が増 殖しにくい環 境をつくる。							本剤過敏症の既 往歴、牛乳に対 してアレルギー あり [アナフィラキシー 様症状を起こす]							通常成人1日3～6gを3 回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適 宜増減する。	腸内菌叢の異 常による諸症 状の改善
ラクボン	ラクボン	本剤は腸管 内で発芽・繁 殖し(マウスの 実験から)、乳 酸を産生して腸 内の腐敗細菌 群の増殖を 抑制して、整 腸作用を営 む。														通常成人1日3～6gを3回 に分割経口投与する。小 児は通常1日1.5～3gを3 回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適 宜増減する。	腸内菌叢の異 常による諸症 状の改善
酪酸菌成分	宮入菌末 ミヤBM細 粒	腸内細菌に 対する作用、 化学療法剤 投与時にお ける整腸作 用・その他整 腸作用を有す る														腸内菌叢の異常による諸 症状の改善	通常、成人1日 1.5g～3gを3回 に分割経口投 与する。なお、 年齢、症状に より適宜増減 する。

消化薬

製品群No. 13

ワークシートNo.11

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 (につながるおそれ)	適応対象の 症状の判別 に注意を要 する(適応を 誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)				
評価の視点		併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの										使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ
でんぶん消化酵素	ジアスターゼ	ジアスターゼ	アミラーゼとしてでんぶん分解をする。				5%以上または頻度不明(過敏症)			本剤に対し過敏症既往歴						1回0.3~0.5g、1日3回、適宜増減	主として炭水化物の消化異常症状の改善	
	ジアスマン	単味なし																
蛋白質消化酵素	ニューラーゼ	単味なし																
	プロザイム	単味なし																
脂肪消化酵素	ホリパーゼ	単味なし																
	リパーゼ	単味なし																
繊維消化酵素	セルラーゼ	単味なし																
	セルロシン	単味なし																
複合消化酵素	タカヂアスターゼ	タカヂアスターゼ	主として炭水化物の消化				頻度不明(過敏症)									1回0.2~0.3g、1日3回、適宜増減	主として炭水化物の消化異常症状の改善	
	バンクレアチン	バンクレアチン	消化作用				5%以上または頻度不明(過敏症)			本剤過敏症既往歴、ウシまたはブタ蛋白質に対し過敏症既往歴				直ちに飲み干す(小児が過って本剤を大量に停滞させたため、口内炎、口腔内潰瘍を起したとの報告がある)、粉末を吸入しない(気管支けいれん、鼻炎の報告)		1回1g、1日3回、適宜増減	消化異常症状	
	ピオチアスターゼ	単味なし																
	ピオタミラーゼ	単味なし																

消化薬

製品群No. 13

ワークシートNo.11

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	I 用法用量	J 効能効果	
		薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ				薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)				使用方法(誤使用のおそれ)
胆汁成分	ウルソデオキシコール酸	ウルソ錠 利胆作用及び胆汁うっ滞改善作用、肝機能改善作用、胆石溶解作用	併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ) 併用注意 スルフォニル尿素系経口糖尿病用薬(血糖降下作用増強)、コレステラミン等・制酸剤・脂質低下剤(本剤の作用減弱)	薬理・毒性に基づくもの 特異体質・アレルギー等によるもの 間質性肺炎(頻度不明)	薬理・毒性に基づくもの 特異体質・アレルギー等によるもの 1~5%未満(下痢)、0.1~1%未満(悪心、食欲不振、胸やけ、AST(GOT)・ALT(GPT)・ALP上昇)、0.1%未満(嘔吐、腹痛、便秘、胃不快感等、全身けん怠感、めまい、白血球減少)、頻度不明(ビリルビン上昇、γ-GTP上昇)	0.1~1%未満(過敏症)		完全胆道閉塞(症状憎悪)、劇症肝炎(症状憎悪)	慎重投与 (投与により障害の再発・悪化のおそれ) 重篤な肺疾患、消化性潰瘍、胆管胆石、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善を目的で硬変期で高度の黄疸のある場合	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ) 使用量に関するもの 過量使用・誤使用のおそれ 長期使用による健康被害のおそれ	原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善において1日900mgまで			1.1回50mgを1日3回経口投与する。 2.1日600mgを3回に分割経口投与。 3.1日600mgを3回に分割経口投与する。増量する場合の1日最大投与量は900mgとする。 高齢者は用量に注意する	1.下記疾患における利胆(胆管・胆のう)系疾患及び胆汁うっ滞を伴う肝疾患、慢性肝疾患における肝機能の改善、下記疾患における消化不良(小腸切除後遺症、炎症性小腸疾患) 2.外殻石灰化を認めないコレステロール系胆石の溶解 3.原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善
	胆汁末 デヒドロコール酸	デヒドロコール酸注射液			ショック(注射投与による)(頻度不明)	頻度不明(悪心・嘔吐、軟便、下痢、発赤、全身掻痒感、悪寒、発熱、咳嗽、頭痛、不快感)			完全胆道閉塞(病像の悪化)、急性期の肝・胆道疾患(炎症に悪影響)、重篤な肝障害(悪化)、気管支喘息・アレルギー疾患(ショックの報告)	高齢者、12歳以下の小児、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人			大量投与により原疾患の悪化		1日100~1000mgを1~3日間隔で静注。適宜増減	下記疾患における利胆・胆道(胆管・胆のう)系疾患および胆汁うっ滞を伴う肝疾患	



制酸・健胃・消化・整腸を2以上標榜するもの

製品群No. 14

ワークシートNo.12

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 副作用のおそれ	E 患者背景(既往歴・治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	I スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	用法用量	効能効果	
													薬理作用
	アズレンスルホン酸ナトリウム	胃炎・胃潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、潰瘍病巣を保護する										アズレンスルホン酸ナトリウムとして、1回2mg[アズレンスルホン酸ナトリウム細粒(0.4%)として0.5g、アズレンスルホン酸ナトリウム錠(1%)として0.2g]を1日3回食前に経口投与(1回量を約100mLの水又は微温湯に溶解することが望ましい)。	胃炎・胃潰瘍における自覚症状及び他覚所見の改善
	アルジオキサ	胃炎・胃潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、組織修復を促進する	テトラサイクリン系抗生物質・ニューキノロン系抗菌剤(併用薬の作用減弱)		0.1~5%未満(便秘)		透析療法(アルミニウム脳症・アルミニウム骨症)	腎障害、高齢者			アルミニウム脳症・アルミニウム骨症(腎障害患者)	アルジオキサとして1日300~400mgを3~4回に分けて経口投与	胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎の自覚症状及び他覚所見の改善
	グリチルリチン酸モノアンモニウム・グリチロン注一	抗炎症作用	ループ利尿剤・チアジド系およびその類似降圧利尿剤(低カリウム血症)、甘草(偽アルドステロン症)	偽アルドステロン症(頻度不明)、横紋筋融解症(グリチルリチン酸または甘草を含有する製剤)			偽アルドステロン症、ミオパシー、低カリウム血症(低カリウム血症、高血圧症等を悪化)	高齢者、妊婦小児等			長期運用により偽アルドステロン症	グリチルリチンとして、通常成人1日1回40mgを皮下注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	薬疹
	L-グルタミン	胃潰瘍・十二指腸潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、組織修復を促進する			0.1~5%未満(便秘、口渇、悪心、顔面紅潮)							1日1~2gを3~4回に分けて経口投与。高齢者では減量。	胃潰瘍、十二指腸潰瘍の自覚症状及び他覚所見の改善
	ゲファルナート	胃潰瘍・十二指腸潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、組織修復を促進する			0.1~5%未満(便秘、口渇、悪心、上腹部不快感)、0.1%未満[口内炎、下痢、舌炎、AST(GOT)・ALT(GPT)軽度上昇]	0.1%未満(過敏症)	妊婦又は妊娠している可能性のある婦人	高齢者				ゲファルナートとして1回50~100mgを1日2~3回経口投与。高齢者では減量。	急性胃炎・慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、急性潰瘍)の改善、胃潰瘍・十二指腸潰瘍
	銅クロロフィリン塩												
	スクラルファート	胃炎・消化性潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、潰瘍病巣を保護する	クエン酸製剤(血中アルミニウム濃度上昇)、血清カリウム抑制イオン交換樹脂・ニューキノロン系抗菌剤・ジギタリス製剤・フェニトイン・テトラサイクリン系抗生物質等・甲状腺ホルモン剤・胆汁酸製剤(併用薬剤の吸収遅延・阻害、服用時間をずらす)・キノジン(併用薬剤の排泄遅延)		0.1~5%未満(便秘、口渇、悪心)、0.1%未満(嘔気等)	頻度不明(発疹、蕁麻疹等)	透析療法(長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症)	腎障害(アルミニウム脳症、アルミニウム骨症)、リン酸塩の欠乏(リン酸塩の吸収阻害)、経管栄養処置・低出生体重児および新生児発育不全、高齢者			アルミニウム脳症・アルミニウム骨症等	1回1gずつ、1日3回経口投与。	胃・十二指腸潰瘍、急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、急性潰瘍)の改善

粘膜修復成分

制酸・健胃・消化・整腸を2以上標榜するもの

製品群No. 14

ワークシートNo.12

リスクの程度 の評価	A 薬理作用		B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ 化に伴う 使用環境の 変化	用法用量	効能効果	
	評価の視点	薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要 する(適応を 誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)			スイッチ化 に伴う使用 環境の変化			
			併用禁忌(他 剤との併用により 重大な問題が 発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの						使用量に上 限があるもの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被 害のおそれ				
粘膜修復成分	塩酸セトラキサート	ノイエルカプセル	胃炎・胃潰瘍治療薬・防御因子を強化し、胃粘膜微小循環改善作用を有する				0.1~1%未満(口渇、悪心・嘔吐、下痢、便秘、胃部不快感・膨満感)、頻度不明(AST(GOT)上昇・ALT(GPT)上昇等)	0.1~1%未満(過敏症)				血栓(脳血栓、心筋梗塞、血栓性静脈炎等)、消費性凝固障害、妊婦または妊娠している可能性のある婦人							塩酸セトラキサートとして1回200mg(1カプセルまたは粒粒0.5g)を1日3~4回食後および就寝前に経口投与	急性胃炎・慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、急性潰瘍)の改善、胃潰瘍
	ソファルコン	セスファルコカプセル	胃炎・胃潰瘍治療薬・防御因子を強化し、粘膜保護・組織修復作用を有する				頻度不明(便秘、口渇、胸やけ)	頻度不明(過敏症)				妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、授乳中の婦人、小児等							ソファルコンとして1回100mgを1日3回経口投与	急性胃炎・慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、急性潰瘍)の改善、胃潰瘍
		メチルメチオニンスルホンウムクロライド	キャベジンUコーワ錠	胃炎・消化性潰瘍・慢性肝疾患治療薬・防御因子を強化し、組織修復作用を有する。また肝障害改善作用を有する。				0.1%未満(便秘、下痢、あい気等)	0.1%未満(過敏症)				妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児、高齢者							1回25~75mgを1日3回経口投与。 高齢者では減量。
消化成分	シメチルホリシロキサソ	ガスコン錠	胃内有泡性粘液除去作用を有し、消化管内ガスを駆除する				0.1~5%未満(軟便、胃部不快感、下痢、腹痛、0.1%未満(嘔吐、嘔気、食欲不振、胃部重圧感、頭痛)												1. 1日120~240mgを食後又は食間の3回に分けて経口投与 2. 検査15~40分前に40~80mgを約10mLの水とともに経口投与 3. 検査3~4日前より1日120~240mgを食後又は食間の3回に分けて経口投与	1. 胃腸管内のガスに起因する腹部症状の改善 2. 胃内視鏡検査時における胃内有泡性粘液の除去 3. 腹部X線検査時における腸内ガスの駆除